

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 3 区分

【発行日】平成20年12月18日(2008.12.18)

【公表番号】特表2008-519568(P2008-519568A)

【公表日】平成20年6月5日(2008.6.5)

【年通号数】公開・登録公報2008-022

【出願番号】特願2007-540380(P2007-540380)

【国際特許分類】

H 0 4 L 12/56 (2006.01)

H 0 4 Q 7/38 (2006.01)

H 0 4 Q 7/22 (2006.01)

H 0 4 Q 7/28 (2006.01)

【F I】

H 0 4 L 12/56 1 0 0 D

H 0 4 B 7/26 1 0 9 G

H 0 4 Q 7/04 J

H 0 4 B 7/26 1 0 7

【手続補正書】

【提出日】平成20年10月31日(2008.10.31)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

無線送信 / 受信ユニット (W T R U) であって、

複数の無線アクセス技術 (R A T) 固有プロトコルスタックを含むデータプレーンであって、複数の無線アクセス技術 (R A T) 固有プロトコルスタックのそれぞれは P H Y 層、M A C 層及びモビリティ管理アプリケーション層を含むデータプレーンと、

モビリティ管理についての情報、コマンド及びトリガーを、複数の無線アクセス技術 (R A T) 固有プロトコルスタックのそれぞれの各 P H Y 層、各 M A C 層及び各モビリティ管理アプリケーション層と直接通信するように構成された I E E E 8 0 2 . 2 1 M I H プレーンと

を備えたことを特徴とする無線送信 / 受信ユニット。

【請求項 2】

前記 I E E E 8 0 2 . 2 1 M I H プレーンは、複数の無線アクセス技術 (R A T) 固有プロトコルスタックのそれぞれのモビリティ管理アプリケーション層サービスと直接通信するように構成される M I H H L C F 層をさらに備えたことを特徴とする請求項 1 に記載の無線送信 / 受信ユニット。

【請求項 3】

前記 H L C F からハンドオーバーコマンドを受信するように構成される M I H ハンドオーバーファンクションをさらに備えたことを特徴とする請求項 2 に記載の無線送信 / 受信ユニット。

【請求項 4】

前記 I E E E 8 0 2 . 2 1 M I H プレーンは、複数の無線アクセス技術 (R A T) 固有プロトコルスタックのそれぞれの各 P H Y 層及び各 M A C 層と直接通信するように構成される M I H L L C F をさらに備えたことを特徴とする請求項 1 に記載の無線送信 / 受

信ユニット。

【請求項 5】

前記 I E E E 8 0 2 . 2 1 M I H プレーンは、前記 L L C F からハンドオーバーイベントインジケーションを受信し、ハンドオーバーが予め定められた基準に基づいて要求されているか否かを判定するように構成される M I H ハンドオーバーファンクションを備えたことを特徴とする請求項 4 に記載の無線送信 / 受信ユニット。

【請求項 6】

前記ハンドオーバーイベントインジケーションは、リンク品質、サービス・アベイラビリティ及びサブスクリプションのうちのいずれか一つに相当することを特徴とする請求項 5 に記載の無線送信 / 受信ユニット。

【請求項 7】

プロセッサが、無線アクセス技術 (R A T) 固有ハンドオーバーファンクションを実行するように構成される技術固有ハンドオーバープレーンを動作させるようにさらに構成されることを特徴とする請求項 1 に記載の無線送信 / 受信ユニット。

【請求項 8】

無線送信 / 受信ユニット (W T R U) において行われる方法であって、
I E E E 8 0 2 . 2 1 M I H プレーンからデータプレーンにモビリティ管理についての情報、コマンド及びトリガーを通信するステップ
を含み、

前記データプレーンは、複数の無線アクセス技術 (R A T) 固有プロトコルスタックを含み、

複数の無線アクセス技術 (R A T) 固有プロトコルスタックのそれぞれは P H Y 層、 M A C 層及びモビリティ管理アプリケーション層を含み、

前記情報、コマンド及びトリガーは、複数の P H Y 層、 M A C 層及びモビリティ管理アプリケーション層のそれぞれと直接通信されることを特徴とする方法。

【請求項 9】

M I H プレーンの M I H H L C F 層から複数の無線アクセス技術 (R A T) 固有プロトコルスタックのそれぞれのモビリティ管理アプリケーション層サービスに M I H H L C F 情報を直接通信するステップをさらに含むことを特徴とする請求項 8 に記載の方法。

【請求項 10】

M I H ハンドオーバーファンクションの H L C F からハンドオーバーコマンドを受信するステップをさらに含むことを特徴とする請求項 9 に記載の方法。

【請求項 11】

M I H プレーンの M I H L L C F から複数の無線アクセス技術 (R A T) 固有プロトコルスタックのそれぞれの各 P H Y 層及び各 M A C 層に M I H L L C F 情報を直接通信するステップをさらに含むことを特徴とする請求項 8 に記載の方法。

【請求項 12】

M I H プレーンの M I H ハンドオーバーファンクションの L L C F からハンドオーバーイベントインジケーションを受信するステップと、

ハンドオーバーが予め定められた基準に基づいて要求されているか否かを判定するステップと

をさらに含むことを特徴とする請求項 11 に記載の方法。

【請求項 13】

前記ハンドオーバーイベントインジケーションは、リンク品質、サービス・アベイラビリティ及びサブスクリプションのうちのいずれか一つに相当することを特徴とする請求項 12 に記載の方法。